

平成21年度第1回政策評価委員会 摘録

平成21年7月3日(金)
午後3時から午後5時まで
第3庁舎第3会議室

議事1 平成20年度事務事業総点検及び施策評価の実施結果について

委員長 事務局の説明に対して、御質問等があれば、お願いしたい。

委員 点検結果は、他都市と比べるとどうか。

事務局 本市の計画は、3か年の計画事業費を事務事業ごとに積み上げて、予算と連携を十分に図りながら策定しているため、事業目標に対する達成度は高くなっている。他都市では、本市ほど、計画と予算との連携を図っていないものが多く、目標に対する達成度は7割前後のところが多いと聞いている。

委員 平成19年度と比較すると傾向などはあるか。

事務局 平成19年度は、計画の3か年の最後の年だったので、達成度は80%程度であった。平成20年度は計画の見直しを行っているので、前年度と単純な比較はできないが、全体的な傾向としては、計画の初年度であったこともあり、事業目標に対する達成度は高くなったと考えている。

議事2 施策評価の検証結果について

委員長 何か意見等があれば、お願いしたい。

委員 参考指標について単位が様々あるが、分かりづらく感じる。むしろ共通指標はできないのか。

事務局 施策ごとに指標のたて方もあるので、一概には言えないが、どういう考え方でその指標としたのかについて、説明が必要であると考えます。他の委員からも同様の指摘をいただいているので、事務局に伝えたい。

委員長 その結果について、分かるように委員会に返してもらえればと思う。

事務局 「指標の説明」欄に、なぜその指標としたのかを説明するように事業局を指導したい。

委員 産業の分野（の柱）が1年で大分良くなったのではないかとの意見があったようだが、その良かった箇所を他局にうまく伝えられたらよいと思う。

委員長 今回の意見にのるような形だが、資料にある「対応の方向性」(案)に5つ目の追加を提案したい。1年前にアンケートを行ったが、また行いたい。第1次評価を行う部署が、どういう意識を持っており、どのような問題点があるのかを出せるアンケートを行い、それを政策評価委員会にフィードバックしていただければと考える。是非、委員会の意見として採用してもらいたい。

事務局 2年前に実施しているが、その時のものをベースとして、委員長に御相談して、次回委員会でアンケート実施の案をお示ししたい。実施時期であるが、今、この時期に実施しても、事業所管課で一息ついているところなので、実感として答えることが難しいのではないか。21年度の施策評価を来年の1、2月に委員会での改善意見を見ながら行うので、そのタイミングが良いのではないかと思う。

委員長 実施のタイミングは良いと思う。アンケートの項目については、次回委員会で検討させていただければと思う。そのほかに何か意見はあるか。

委員 “評価委員（市民）の目線で”とあるが、これはどのような概念ととらえればよいか。

事務局 職員に求められる“市民の目線”とは、どういうイメージかという趣旨の質問ということでよいか。だとすれば、この委員会でも3名の市民公募委員の方がいるが、学識経験者とともに市民の目線で見ていただき、これをベースに意見を各事業局に投げ返している。評価結果をHPで公表して、市民の意見をいただき、これを事業局へフィードバックしている。こうした取組を通じて、市民の目線に近付けていると考えている。

委員長 市民の目線と言った時には、いろいろな市民の方がおり、市民とは何かということになるが、ここに出席している政策評価委員会委員の方は、行政側の立場で評価するのではなく、市民側に立って評価しているものだと思う。我々の提言自体が市民の目線に立っているものだと考える。我々の意見がフィードバ

ックされることが、市民の目線に近付いているということではないか。評価する職員に委員会の意見が伝わり、事業所管課で理解し、そして改善に取り組んでいくという過程を経て、市民の目線に近付いていくものとする。そのためにもフィードバックしなければ意味がない。そういう意味では、我々は、意見をどんどん出していかなければならない。ここでの問題は、意見の相違をどう調整するか。全員の意見が一致することはありえない。要は、委員会の意見の方向性をどうするかということだと思う。

副委員長 私が担当したところでは、「要改善」というものは少なく、ミニマムレベルでは、水準に達しているものが多くなった。かなりレベルが上がっている印象である。しかしながら、「良」のところで示されている判断基準であるアウトカムまで説明されており、すんなり受け入れられるパーフェクトなものは非常に少なく、そうすると2つ方向性がある、1つは「要改善」をあげていく方向性と、2つは、あまり多くない「良」を増やしていくという方向性があると思う。いまの判断基準でいうと、「要改善」は少なく、すると「良」を増やしていくインセンティブのようなものをこの委員会で考えられるような仕組みにしていくことが必要ではないか。とはいっても、その仕組みがどのようなものかは、見えていないが。

委員長 今回の意見に全く賛成である。アウトプットからアウトカムという話は、市民が期待しているものであり、「要改善」から「良」へという流れは当然だろうと考える。その場合に問題になってくるのが、事業が進行中のものについてはどう評価するかということがあって、ある事業が効果を発現するまでの期間の評価をどうすべきかということについて、この委員会で検討し、ある種の回答を出していかなければならない。そういった意味を含めて現場の意見を聞きたい。そういったものを含めて今後の課題としていきたい。よろしければ、委員会の意見としたい。

委員 私も昨年よりは、全体的に記述等が分かりやすくなっていて、レベルが上がっていると実感している。さきほど市民目線という話があったが、知識があるところとないところでは、思い入れの有無もあり評価が変わってきてしまうと思う。自分としては、専門的に分かっているところがあったが、そのような施策についても社会的な立場に立った上で、評価に当たっていた。

委員 今回は非常に評価しやすかった。全体的に評価文章も簡潔に、数値もきちんと書いており、私個人としては評価があがってきた。非常に具体的でもあった。

委員長　　そういう意味では、市民目線の記述が増えてきたのではないか。

委員　　感想みたいな話になるが、分かりやすくなった部分と、もう少し頑張っ
て欲しい部分があった。分かりやすくなった部分は、箇条書きにする、成果のあたりは数字や指標で説明する努力をしている。現状の問題、目標、成果までをストーリーを通そうという意識も感じた。個人的に感じたところは以上で、かなり分かりやすくなってきたと考える。課題に感じたところは、委員長と同様に、ハード事業については、完成するまでの間に成果をどのように表現していくかだ。もう少し工夫の余地がある。工事の進捗に徹するのであれば、進捗が順調であることを表現してもらえばよいと感じた。もうひとつは、事務事業がたくさんぶら下がっている施策については、全体をどのように表現していくか苦労されている印象を受けた。羅列になりそうなところをいかに全体像を表現していくかというところは、まだ工夫の余地がある。

委員長　　大きくクラスター別に分けてみるとか、さきほどあった工事の進捗に合わせるとか、または副作用が起きていないか、そういったところを記述してもらえば、市民は安心するのではないか。

委員　　向ヶ丘遊園跡地の問題については、様々な問題があり困難な問題であり、市の職員もどうしたらよいかという思いが読みながら伝わってきた。

議事3 施策評価の検証結果の取りまとめについて

質疑なし

議事4 その他（今後のスケジュール等）

委員長　　御質問等あれば、お願いしたい。

委員　　コメントの数、要改善以外はどのくらいあるのか。

事務局　　合計で476件、これについては、チェックシートそのものを戻すので、意見があるところは、評価にかかわらず、局から1件1件回答をもらうことを考えている。

委員長 我々の意見については、フィードバックが必ずあるということなので、我々のモチベーションもかなり上がるということになる。

事務局 事務局では要改善だけではなくそのほかのものについてもフィードバックしていきたい。良い評価をいただいたものについてもほかの事業局に見てもらって、似たような事業を持っているところの参考にしてもらおうことを考えている。

委員長 評価は欠点列挙ではないので、好事例については、全体として共有してもらえばよい。要は、全体として良くなればよいので、いまのようなことは、是非やってもらえばよいと考える。

副委員長 私が担当したところに、良い事例があったので、参考にしてもらえばと思う。試行的検証項目については、非常に悩ましく、評価をどうするか迷った。ほかの先生方はどのように判断されていたのか、知りたいし、ある程度すり合わせがあった方が、今後のためにもよいのではないか。

委員長 今の意見は、原課が、謙遜して悪い評価とするのではなく、やっているものはやっているということで、自信を持って高評価としてよいのではないかといいことだと思う。それが、果たして適正な評価かどうか、その際の判断基準というものをどうするか、つまりルール化さえされていけばよいのであって、高評価であれば、原課としてもモチベーションもあがる。この件について、今後の委員会で機会をみてやるということではいいか。

委員 チェックシートの総合評価のコメントについて、全体的に見た場合の評価がどうかという項目を設けるのはいかがか。

事務局 「良」「可」「要改善」を総括的なところでいれるということであるが、それぞれの項目と同じレベルでの評価は難しいのではないかと考えている。

委員 同じレベルでなくても、何らかの形で、全体的に見て、分かりやすいのか、分かりにくいのかという程度でも、何かあってもよいと思う。

委員長 総括的な意見では、言い残したことをコメントしていただく。委員それぞれが、それぞれの思いや考えを書いていただくということではよいのではないか。

委員 待機児童の問題にもあるように、受け入れ児童数を増やしても、入園希望児童数自体の増加数が多く、その場合の評価はどうすべきか迷う。

委員長 アウトプットレベルについては十分であるが、次年度以降は、修正する必要があるという書き方でよいのではないか。

副委員長 事業目標と指標が矛盾したものについて、どこまで評価に盛り込むかについて、どのように評価すべきかよく分からなかった。また、それを総括的な意見に盛り込んでいくのが、メタ評価（市の評価内容の評価）を行っている委員としての役割であると同時に限界であると感じる。そのあたりは、どこまで踏み込んでよいのか。

委員長 まず、書かれてあることが、真実であることを前提に見ていかないと話が進まない。つまり、疑問が生じてくるということは、説明責任をよく果たしているからこそ、出てきている問題であると考え。分かりやすさ以外については、総括的意見で疑問として記載していけばよいのではないか。

委員 政策評価委員会の範囲を超えた話になってしまうが、税収が落ち込んでいるところであるが、施策評価や事務事業点検をレビューや予算などにおいて、どう活用していくか、考えがあれば伺いたい。それによりこの委員会がもっとお役にたてる場所があるのではないかと思うのだが・・・。

事務局 評価のスケジュールの観点からは翌年度の予算を検討するオータムレビューについては資料として活用されている。さきほど保育所の待機児童数について話があったが、新聞などでは待機児童数が載り、これが保育行政の評価ということになる。単に待機児童数の多寡ということだけではなく、そのためにどのような取組が行われているかについての評価をしていただければ、担当職員のモチベーションを高めることにつながっていくものと考えている。

委員長 他に意見がなければ、質疑は以上としたいが、いかがか。

一同 異議なし。

以上